

石川馨先生 生誕 100 年記念事業企画書
Plan for Professor Kaoru Ishikawa Birth Centenary Commemoration Project
生 誕 : 1915 年 7 月 13 日
Birthdate : July 13, 1915

目 次

- A. 石川馨先生のご業績と事業目的
 - A1. 事業目的
 - A2 石川馨先生の主要な業績とお人柄
- B.事業内容
 - B1. ご活躍と追想の書：「人間石川馨と品質管理」のホームページへのアップロード
 - B1.1. :日本語版のアップロード：
 - B1.2. 日本語版「人間石川馨と品質管理」の続編の刊行：
 - B1.3. 「人間石川馨と品質管理」の英訳とホームページへのアップロード
 - B1.4. 英訳版「人間石川馨と品質管理」の続編の刊行とアップロード
 - B2. 石川先生が我々に向けて発せられた言葉のまとめ
 - B3. 冠行事
 - B3.1. 冠行事⇒国内
 - B3.2. 冠行事⇒海外
 - B4. 石川先生の額入り写真の掲示
 - B5. 東京都市大学（旧：武蔵工大）での石川先生記念コーナー（仮称）の設置
 - B6. 「石川馨先生生誕 100 年記念国際シンポジウム」（仮称）の開催
- C.組織
 - C1. 組織(組織委員会)
 - C2. 実行委員会
- D. 予算
 - D1. 手持ち資金
 - D2. 英訳スポンサーからのご協力
 - D3. 国際シンポジウム開催の事業経費負担（ご寄付）へのご協力
- E.協力者のご芳名の掲載：
- F. 連絡・問い合わせ先；

A. 石川馨先生のご業績と事業目的

A1. 事業目的

2015年は石川馨先生の生誕100年にあたります。先生が品質管理の道に入られたのは1950年代のはじめですので、ご逝去された1989年までのほぼ40年間に日本のみならず世界の国々で、企業経営に多大なインパクトを思い出し、これからの世代に伝えていくことは意義あることと考えます。先生が何をなされ、何故、どのようになされたのかを思い起こしてみる良い機会です。このような考えのもとに、次の目的をもって「石川馨先生 生誕100年記念事業」を企画いたしました。

- a. 石川先生の哲学と成し遂げられたお仕事について、先生のお人柄も含めて、日本のみならず世界の国々の今日および明日の世代に伝える
- b. 石川先生の品質管理についての哲学・考え・方法等は、今日も、明日も、適切で効果的に企業経営に役立つことを示す

具体的事業内容については、後術Bをご参照ください。

A2 石川馨先生の主要な業績とお人柄

石川馨先生は、生産現場を中心とした品質管理に加えて、新製品開発および営業の品質管理の重要性も早くから主張され、全社的品質管理（TQC）の発展に多大な貢献をされました。また、「人間は人間である」というお考えのもとに、QCサークル活動を創設・育成され、第一線現場作業者のデータにもとづく改善力を高めることに貢献されました。そうして、誰もが、QCサークル活動に参加することにより潜在的能力を発揮し、組織の発展に役立つことができることを信じておられました。

この面での先生のお考えは、先生の御著書：

「日本的品質管理」（日科技連出版、1981）、
英訳：“What Is Total Quality Control? The Japanese Way”
（Prentice Hall, 1985）

に集大成されています。

さらに、日本科学技術連盟（以下、日科技連）、日本規格協会等を通じて、水野滋先生、朝香鐵一先生らとともに、「日本品質管理学会」、雑誌「品質管理」、「デミング賞」、「品質管理大会」、「品質管理シンポジウム」、「品質月間」等の創設・発展にリーダーシップを発揮され、品質管理の研究、推進、教育、普及のオルガナイザーとしてその発展に献身的に尽力されました。

また、先生は、日本だけにとどまらず、「国際品質アカデミー（IAQ）」「国際品質管理会議」の創設・運営でも、リーダーシップを発揮されるとともに、日本生産性本部あるいは日科技連主催の海外品質管理視察チームの団長として、また、英文の品質管理の学術定期刊行物の編集委員長として国際交流に努められました。さらに、海外技術者研修協会（AOTS*）主催の、国際協力事業団（JICA）と日本規格協会共催のアジア生産性機構（APO）と日本

B.事業内容

B1. 先生のご活躍と追想の書：「人間石川馨と品質管理」のホームページへのアップロード

B1.1.:日本語版のアップロード：

「人間石川馨と品質管理」（石川馨先生追想録編纂委員会編、
発行人：石川 恵子、1993/9/23 刊行
編 纂： 石川馨先生追想録編纂委員会、
世界 14ヶ国、172 名による執筆、約 600 頁(incl. 28 頁英文))
日科技連ホームページへのアップロード

⇒本件については既に次の URL にアップロード済みです。

<http://www.juse.or.jp/resource/>

[web にアップロードする意義]

通常追想録は、執筆者個々の「思い出と感謝」についての記載で構成されていますが、本書は、体系的に整理された石川先生の活動内容、研究、語録、文献、年譜があつて、その合間に個々の執筆者の「思い出と感謝」が挿入されているという構成になっています。全体を見ると、目次等を除いた部分は 540 頁で、その内、前者の「活動等」の部分は約 340 頁であるのに対して、後者の「思い出と感謝」の部分は 210 頁です。

また、石川先生は、日本の品質管理の発展に非常に多くの面で関与されて来られたので、本書が Web にアップロードされれば、石川先生個人の歴史にとどまらず、日本の品質管理の歴史について、若い世代を含めて理解を深めることに役立つと期待できます。

B1.2. 日本語版「人間石川馨と品質管理」(続編)の刊行：

上記追想録で執筆されていない方で、次の点からのご寄稿を頂き、続編として、上記 URL に掲載します。

a.上記の追想録と同じように、石川先生の思い出として、ご業績、お人柄等について

b.先生が創設された QC サークル、

あるいは先生が強力に推進され諸活動についての印象、感想、評論等、

c. 先生の著作から受けたインパクト等を含む評論・感想等

d. 石川先生だけに限定せずに、水野滋先生、朝香鐵一先生をはじめとしたパイオニアの方の残した品質管理の足跡の今日の TQM へのインパクトと今後の発展について

石川先生との個人的コンタクトが無かった方からも、上記、b, c, d についてのご寄稿を歓迎します。既にご執筆済みの方についても、掲載済みの内容とは別の視点からのものであれば、ご寄稿を歓迎します。

なお、日本語原文とともに、英訳をお送りください。英訳版の続編にも掲載いたします。

(どうしても英訳が無理と言う方は、その旨、お申し出ください。英訳続編への掲載はパスさせていただきます。

[執筆要領]

a. 様式と字数：

- ・和文タイトル（英文タイトル）
- ・氏名（英文氏名）
- ・本文
- ・所属・職位（英文所属・職位）
- ・和文最大 1600 字

b. ご寄稿送付先：

羽根田真仁 一般財団法人日本科学技術連盟 企画広報室課長

[<m-haneda@juse.or.jp>](mailto:m-haneda@juse.or.jp)

c. 締切： 2015 年 5 月末日

お送りいただいたご寄稿について、実行委員会編集担当の方から検討をお願いすることがありうることをご了承ください。

B1.3. 「人間石川馨と品質管理」の英訳とホームページへのアップロード

日本文 約 550 頁の内、約 500 頁の英訳（約 20 万 words）

[英訳の意義]

英訳されたものが Web にアップロードされれば、海外の方たちにも、石川先生のご業績・お人柄はもちろん、日本の品質管理について理解を深めてもらうことができます。また、日本の品質管理関係者が日本の品質管理の歴史について外国人に説明する際にも、海外に進出している日系企業の関係者が、ローカルの従業員に本社の品質管理についての一般的歴史的背景を説明する際にも、役立つことが期待されます。

さらに、この英訳の意義についての説明を聞いた海外の品質専門家は次の点を追加してくれました。

一この本の英訳ができれば、日本の TQM の海外への普及についての情報も得られ、世界における品質の実践の統合に貢献するでしょう。そうして、このことは、将来の世代の人はもとより、今日の人であっても、石川先生のことをほとんど知らない人にとって、便益をもたらすでしょう。

一そのような情報は、半世紀近くにわたる TQM の分野でのもろもろの発展についての理論的解釈に役立ち、更なる発展にむけての刺激と方法を与えるでしょう。

B1.4. 英訳版「人間石川馨と品質管理」(続編)の刊行とアップロード

上記追想録に執筆されていない方についても、上述の 1.3 に準じてご寄稿を受け付け、英訳版の続編として、アップロードします。 Word 数 800words 以内

B2.. 石川先生が我々に向けて発せられた言葉のまとめ

「人間石川馨と品質管理」の 15 章と 16 章に該当しますが、これら以外に先生の主な著書、講義・講演録、論文などから適切な文章・言葉を抜き出して編集します。

石川先生の真骨頂はまさに“人間石川馨”であり、ここに後世に伝えたい先生の大部分

があり、ここに光を当ててまとめます。全体で A4 30 頁程度。英訳し、海外の人たちの「人間 石川馨」に対する理解に役立てます。⇒久米均組織委員会委員長が執筆・編集
⇒日英両語とも Web にアップロード、加えて品質月間テキストへ？

B3. 冠行事

下記の行事開催に当たっては、「石川馨先生 生誕 100 年記念」を冠として付けていただくことを働きかけていきます。

Prof Kaoru Ishikawa Birth Centenary Commemoration Project

一どの行事にでも共通して使える A4 一枚のチラシを作る。ロゴマークを含む

B3.1. 冠行事⇒国内

a. QCS 6 月 5-6 日 100 回記念

QCS 組織委員：日科技連 QC シンポジウム事務局

b. QC サークル本部、QC サークル誌、洋上大学

本部長、幹事長、日科技連 QC サークル事務局

コーディネータ

c. web ジャーナル『クオリティマネジメント』、トップマネジメント大会

日科技連広報担当事務局：

d. Q フォーラム（11 月）、

日科技連 Q フォーラム事務局

e. JSQC

会長⇒庶務理事、事業担当理事、事務局

f. デミング賞

デミング賞本賞選考委員会委員長、デミング賞選考委員会委員長

デミング賞セクレタリージェネラル、事務局

g. 海外産業人材育成協会 HIDA (AOTS)

Program for Quality Management,

Executive Program for Quality Management

専務理事⇒コーディネータ、研修担当

h. 日本規格協会（JSA）「標準化と品質管理全国大会 2015」

予稿集への石川先生の業績やロゴの紹介(A4・1 枚) 挿入する。

i. . 品質月間行事: 品質月間講演（長田）:

地方講演会⇒日本規格協会⇒長田洋委員

B3.2. 冠行事⇒海外

a. アメリカ品質学会（ASQ）, Nashville 2015 年 5 月 4-5 日

Mr. Bill Troy, CEO, ASQ に JUSE を通じて協力要請

- b. アジア品質ネットワーク (ANQ) 2015 年 9 月 23・24 日 台北
JSQC 国際担当理事を通じて協力依頼
- c. 国際品質アカデミー (IAQ) Budapest, October 26, 2015 Monday
 - 09.00 Opening of the World Quality Forum
Janak Mehta, Chair of IAQ, India
 - 09.10 Memory on the 100th Birthday of Kaoru Ishikawa and Walter Masing
Hans Dieter Seghezzi, Honorary Member of IAQ, Liechtenstein
 - 09.30 Technical and Human Dimensions of Quality
Greg Watson, Past President and Honorary Member of IAQ, Finland
 - 10.00 TQM in Practice
Noriaki Kano, Honorary Member of IAQ, Japan
- d. 国際 QC サークル大会 (ICQCCC) 2015/10/5-7 韓国 KSA に依頼
日科技連国際室を通じて依頼

B4. 石川先生の額入り写真の掲示

日科技連新宿本部のロビーホール又は、応接室に生誕 100 年記念として水野滋、朝香鐵一とともに、3 人のパイオニアの写真と略歴を飾る。

B5. 東京都市大学 (旧：武蔵工大) での石川先生記念コーナー (仮称) の設置

世田谷キャンパスの図書館 4 階の貴重図書室 (立派な部屋) の書棚の一部を利用し写真やプレートの他に「人間石川馨と品質管理」、ご著書、アルバム等 (5、60 冊ぐらいの本は置ける) を置く。

B6. 「石川馨先生生誕 100 年記念国際シンポジウム」(仮称)の開催

先生のご偉業とお人柄を再認識するとともに、先生のお教えを踏まえて、TQM, QC サークルを今後一層発展させていくためには、何をなすべきかという視点から、海外からの発表を含めて、次の通り国際シンポジウムを開催します。

9 月 28 日 (月) 午前 9 時～午後 5 時 (暫定)

夕方： 記念パーティ

会場： 東京大学伊藤ホール (予約済み)

具体的内容については、「石川馨先生生誕 100 年記念事業」でご協力をお願いしています応募状況を見ながら決めたいと考えていますが、是非、同時通訳で実施したいと考えています。

C.組織

C1. 組織(組織委員会)

- 委員長 久米 均 東京大学名誉教授 元 石川研
- 副委員長 佐々木 眞一 一般財団法人日本科学技術連盟 理事長
トヨタ自動車株式会社 相談役・技監
- 副委員長 狩野 紀昭 東京理科大学名誉教授、元 石川研
- 委員 石川 忠 石川馨先生ご令息
- ” 黒川 裕子 (旧姓：石川裕子) 石川 馨先生ご令嬢
- ” 宵 貴子 (旧姓；石川貴子) 石川 馨先生ご令孫
石川馨先生ご令息 故・石川哲氏ご令嬢
- ” 豊田 章一郎 トヨタ自動車株式会社 名誉会長
- ” 揖斐 敏夫 一般財団法人日本規格協会理事長
- ” 大久保 尚武 一般社団法人日本品質管理学会 会長
- ” 金子 和夫 一般財団法人海外産業人材育成協会 理事長
- ” 坂根 正弘 一般財団法人日本科学技術連盟 会長
株式会社小松製作所 相談役
- ” 三木 千壽 東京都市大学 学長
- ” 小大塚 一郎 一般財団法人日本科学技術連盟 専務理事・事務局長
- ” 田中 健 株式会社日科技連出版社 代表取締役社長
- ” Mr. Greg H. Watson First recipient of the Deming Distinguished
Service Award for Dissemination and Promotion (Overseas)
Past-President and Honorary Member, IAQ
Past-President and Fellow, ASQ
- ” Mr. Janak Mehta Second recipient of the Deming Distinguished
Service Award for Dissemination and Promotion (Overseas)
Chairman, IAQ
- ” Mr. Kan Trakulhoon Third recipient of the Deming Distinguished
Service Award for Dissemination and Promotion (Overseas)
President & CEO, Siam Cement Group(SCG)
- ” 赤尾 洋二 山梨大学名誉教授
- ” 飯塚 悦功 東京大学名誉教授
- ” 池澤 辰夫 早稲田大学名誉教授
- ” 細谷 克也 品質管理総合研究所所長
- ” 下山田 薫 元 株式会社ケイ・シー・シー会長
- ” 山岡 建夫 JUKI 株式会社 最高顧問
- ” 鐘 朝嵩 財団法人先峰品質管制学術研究基金會 荣誉董事長 元 石川研
- ” 長田 洋 文教大学教授、東京工業大学名誉教授、元 石川研

C2. 実行委員会

委員長	狩野 紀昭	東京理科大学名誉教授
副委員長	小大塚一郎	一般財団法人日本科学技術連盟 専務理事・事務局長
〃	鈴木 和幸	電気通信大学教授
委員	綾野 克俊	東海大学教授
〃	新木 純	一般社団法人日本品質管理学会 理事
〃	安藤 之裕	一般財団法人日本科学技術連盟 嘱託
〃	大畑 丞	一般財団法人日本科学技術連盟 理事・業務支援部長
〃	尾島 善一	東京理科大学教授
〃	兼子 毅	東京都市大学講師
〃	鈴木 知道	東京理科大学教授
〃	高取 健	一般財団法人日本科学技術連盟 国際室課長
〃	竹内 明日香	一般財団法人海外産業人材育成協会東京研修センター研修担当
〃	水流 聡子	東京大学大学院工学研究科特任教授
〃	中島 宣彦	一般財団法人日本科学技術連盟 理事・教育推進部長
〃	中條 武志	中央大学教授
〃	仲田 雄作	一般財団法人日本規格協会 理事
〃	羽根田真仁	一般財団法人日本科学技術連盟 企画広報室課長
〃	松田 啓寿	松田技術士事務所 所長
〃	光藤 義郎	文化学園大学特任教授
〃	棟近 雅彦	早稲田大学教授
〃	山田 秀	筑波大学教授
〃	山田 佳明	QC サークル本部幹事 株式会社ケイ・シー・シー
〃	横山真一郎	東京都市大学教授

D. 予算

D1. 手持ち資金

「人間石川馨と品質管理」英訳運営委員会事務局（日科技連経理預かり金通帳）

約 168 万円

内訳

2000/12	石川恵子夫人からの拠金	10 万円
2001/1	故・高松宣彦氏（石川研卒業生）からの拠金	10 万円円
2001/2	石川メダル祝賀会（代表者：赤尾洋二氏）からの拠金	約 42 万円
2001/3	狩野紀昭氏デミング賞本賞記念祝賀会からの拠金	約 106 万円

D2. 英訳スポンサーからのご協力

英訳については、スポンサーを募り、各スポンサー毎にお申込みいただいた口数に相当する原文（日本語）ページ数の英訳をお願いします。お申込み口数に応じた日本文コピーをお送りし、その英訳を送り返していただきます。

⇒本件については、次の組織・個人からお申し込みを頂き、既に英訳原稿も頂いています。

- ・海外産業人材育成協会 (HIDA)、
- ・鹿島建設、
- ・狩野品質研究事務所、
- ・関西電力、
- ・コマツ、
- ・JUKI、
- ・先峰品質管制学術研究基金會 (PETT、台湾)、
- ・サイアムセメントグループ (SCG、タイ)、
- ・トヨタ自動車、
- ・日本科学技術連盟(JUSE)、
- ・日本規格協会(JSA)
- ・ペンテル
- ・石川 恵子 様
- ・故・高松宣彦様
- ・北菌謙元様・永岡義久様・新田充様・南直哉様 (元・東京電力(株)TQC 推進関係者)

若干の不足部分は上記の手持ち資金をあてました。目下、石川先生の孫弟子を中心としたチームにより、テクニカルターム等のチェックをやっていただいています。これから、インド品質学会(ISQ)の好意による英文ブラッシュアップに移行します。第 12 章まで、既にアップロード済みです。URL: <http://www.juse.or.jp/english/archives/>

D3. 国際シンポジウム開催他の事業経費負担（ご寄付）へのご協力

目標募集総額： 300 万円

「人間石川馨と品質管理」の執筆者を含む品質管理関係者に

個人 1口 5,000 円刻みで

上記の英訳スポンサー企業を除く TQM 推進に熱心な企業または TQM 関連組織に

法人 1口 50,000 円刻みで

ご協力をお願いしています。

E. 協力者のご芳名の掲載：

「石川馨先生生誕 100 年記念事業」ホームページに協力者として、組織委員、実行委員、スポンサー（協力企業団体名）、記念事業経費分担者、事業協力者のご芳名を掲載します。

F. 連絡・問い合わせ先；

一般財団法人日本科学技術連盟 企画広報室課長 羽根田真仁

[<m-haneda@juse.or.jp>](mailto:m-haneda@juse.or.jp)

FAX: 03(3344) 3022

以上